

## 2023年度

|                    |  |
|--------------------|--|
| 科目名称               | 臨床実習   |
| 授業コード              | AF323  |
| 英語名称               | Clinical study in Judo-therapy 3   |
| 学期                 | 2023年度通年（前・後）  |
| 単位                 | 1.0  |
| 担当教員               | 市毛 雅之 (医療科学部), 佐野 秀明 (医療科学部), 富田 圭佑 (医療科学部), 吉田 真琴 (医療科学部), 市ヶ谷 武生 (医療科学部), 杉浦 加奈子 (医療科学部), 舟喜 晶子 (医療科学部), 鎌塚 正志 (医療科学部)   |
| 記入不要<br>ナンバリングコード  |  |
| 授業の概要              | 本実習では、実際に附属臨床実習施設にて柔道整復師に必要とされる外傷に対する処置法やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。また、外傷や疾患に対して問題解決を行うための理論的な思考を現場の職員や実習生に検討することで、医療現場での協働性を身に着けることを目標とする。  |
| 科目に関連する実務経験と授業への活用 | 担当教員は附属接骨院院長及び柔道整復師としての臨床経験豊富な柔道整復師資格を有する本学柔道整復学科教員（市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田：接骨院、整形外科での豊富な臨床経験有する）による、講義や実習を通じて柔道整復学を学び、臨床現場等に应用できる知識を学ぶ。  |
| 到達目標               | カリキュラム・ポリシーに掲げる「修得した知識と技術を実際の臨床現場でその実践力を養う参加型の臨床実習」が実現できるよう、附属臨床実習施設および学内実習にて、課題と目標を自ら設定し、課題克服および目標達成に取り組む専門性と対応力を身に付けるよう、問題提起と思考力を養う。<br><br>【学内実習】<br>柔道整復を専攻する学生として、臨床見学時において適切な言葉と行動をとることができる。特に基本包帯法、テーピング法の適応、注意点などを説明し、ROM、MMTなどの基本評価ができる。<br><br>【学外実習】<br>附属接骨院の臨床見学を通し、柔道整復師の業務について理解できる。<br>附属接骨院職員及び学生間にて実習における課題を設定し、その課題に対し積極的に解決できる。<br>学生間にて協働性を高め、実習内にてチーム医療の実践できる。<br>患者様に対する言葉遣い、礼儀、マナー等を身につけ、コミュニケーションをとることができる。<br>附属接骨院での臨床実習を通じ、基本包帯法、テーピングが実践でき、身体評価が実践できる   |
| 計画・内容              | 学内実習<br>・見学にあたって必要となる、身だしなみ、挨拶、マナー等についてオリエンテーションを行う。必要に応じて、確認テストやレポートの提出を求める。<br>・担当教員より確認テストやレポートの成績が「見学参加相当」と判断された場合、臨床見学が許可される。<br>・予習については、事前に通知する。予習は1時間以上かけて行うこと。<br>・復習については毎回指定する。復習は1時間以上かけて行うこと。<br>担当教員：市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田<br>学外実習<br>・「臨床実習」は主に附属接骨院（帝京科学大学八王子接骨院、帝京科学大学山梨接骨院）で臨床現場の見学を行う。<br>・見学実習の日程とスケジュール、グループ分けは追って通知する。<br>・見学実習の指導は主に、附属接骨院の院長および勤務柔道整復師が行う。<br>・各担当教員が見学先に赴き、指導を行う。<br>担当教員：市毛、佐野、市ヶ谷、鎌塚、富田、杉浦、舟喜、吉田<br><br>(臨床実習：ポイント)<br>・包帯法、ギブス、テーピング実習<br>・測定と評価<br><br>Step3 - 1 包帯法の復習 担当：吉田、市毛 |

2023年度

|   |   |
|---|---|
| <p>計画・内容</p>                              | <p>Step3 - 2 肩関節包帯法（上行麦穂帯、下行麦穂帯） 担当：吉田、市毛<br/>                 Step3 - 3 肘関節包帯法（集合亀甲帯、離開亀甲帯） 担当：吉田、舟喜<br/>                 Step3 - 4 手関節、手指包帯法（環行帯、麦穂帯） 担当：吉田、舟喜<br/>                 Step3 - 5 足関節包帯法（上行麦穂帯、三節帯、離開亀甲帯） 担当：吉田、杉浦<br/>                 Step3 - 6 上肢における固定法（コーレス骨折） 担当：吉田、杉浦<br/>                 Step3 - 7 上肢における固定法（肘関節脱臼） 担当：吉田、佐野<br/>                 Step3 - 8 下肢における固定法（足関節捻挫） 担当：吉田、佐野<br/>                 Step3 - 9 下肢における固定法（膝関節捻挫） 担当：吉田、富田<br/>                 Step3 - 10 上肢の評価法と測定（ROM、周径） 担当：吉田、富田<br/>                 Step3 - 11 上肢の評価法と測定（MMT） 担当：吉田、市ヶ谷<br/>                 Step3 - 12 下肢の評価法と測定（ROM、周径） 担当：吉田、市ヶ谷<br/>                 Step3 - 13 下肢の評価法と測定（MMT） 担当：吉田、鎌塚<br/>                 Step3 - 14 Step3 Paper test 担当：吉田、富田<br/>                 Step3 - 15 Step3 実技試験 担当：吉田、市毛</p> |
| <p>授業の進め方</p>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内実習と学外実習を行う。</li> <li>・学内実習では、講義と実習を行い、確認テストを行う。<br/>合格者は「見学相当」と判断され、臨床見学が許可される。<br/>不合格者は実習期間中に再試験を受け、合格すれば見学に参加できる。<br/>合格できない場合、見学に参加できないので注意すること。</li> <li>・学外実習先では、指導者または担当教員から与えられた課題に対するレポートを提出すること。さらに、指定課題を与えるので、後日発表すること。</li> <li>・実習後は、自身が臨床実習で学んだ症例や経験を発表する。</li> </ul>   |
| <p>能動的な学びの実施</p>                          | <p>アクティブラーニングのLite法の実践により、短期記憶を中期記憶へ、中期記憶を長期記憶へと構築する。<br/>学外実習時における学生からの質問は積極的に実施してもらいたい。</p>   |
| <p>授業時間外の学修</p>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内実習前は、予め配布する臨床実習ノートや教科書の該当箇所を読み不明な点をまとめておくこと。（各回1時間～2時間）</li> <li>・学外実習前は、予め配布する臨床実習ノートや教科書の該当箇所を読み不明な点をまとめておくこと。（各回1時間～2時間）</li> <li>・学外実習度は、実習にて見学した症例や学習した実習内容をデイリーノートにまとめ、ノートを整理すること。（各回1～2時間）</li> </ul>  |
| <p>教科書・参考書</p>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、資料を配布する。</li> <li>・必要または推薦図書や資料は、適宜案内する。</li> </ul>  |
| <p>成績評価方法と基準</p>                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前レポート（20%）+実習時デイリーレポート（30%）+ルーブリック法による実習評価（50%）にて評価する。</li> <li>・評価項目は別途明示する。</li> </ul>  |
| <p>課題等に対するフィードバック</p>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生からの質問、発表の都度、コメントを行う</li> <li>・レポートはコメントを付与して返却する。</li> </ul>  |
| <p>オフィスアワー</p>                            | <p>Campus Squareを参照。<br/>臨床実習の前後20分。</p>  |
| <p>留意事項</p>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内実習で担当教員から「見学参加相当」の承認が得られないと見学実習に参加できないので注意すること。</li> <li>・学内実習と学外実習は特別な理由がない限り、欠席は認めない。</li> <li>・適切な言葉や行動が取れないと判断された場合、途中で見学を中止することがあるので、緊張感を持って臨んでほしい。</li> </ul> <p>附属の接骨院に来院される患者様は様々な背景を持っている。臨床現場を見学するにあたり、本実習を受講する学生は、患者様に対しどのように振る舞うべきかを自ら考え、医療従事者としての自覚を持って取り組んでほしい。また、常識的な言葉遣いや、適切な行動を身につけ、社会一般的なマナーを習得し、臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるようにする。</p>   |
| <p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p> | <p>授業の進め方<br/>zoomによるオンライン授業と課題学修を組み合わせ実施する。</p> <p>成績評価方法<br/>授業中課題50%と期末レポート50%で評価する。</p>   |